

恵泉女学園 大学報

Keisen University
2007.5

① 学園ニュース

情報教育

カウンセリングルーム

② 恵泉女学園生

③ 地域社会との連携

家庭菜園

地域連携教育プログラム

パイプオルガン奉獻5周年

④ 行事報告

オープンキャンパス

留学生

就職活動

⑤ 恵泉トピックス

タイ国際ワークキャンプ

特色GPに採択



「いのちの泉」

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。また、ご家族ならびに保証人の皆様方にも心からお祝い申し上げます。

今日は皆さん一人ひとりにとって、新しい人生のStoryが始まる日です。

恵泉女学園大学案内の表紙には「Story」という言葉があります。それは、これから始まるこの大学での皆さん方の新しい人生を、豊かに大きく展開させる「物語」を、教職員とともども一緒に作り出していこうというメッセージなのです。

恵泉女学園のStoryの始まりは1929年に遡ります。「キリスト教の精神」、それに日本で初めて学校の教科となった「国際」と「園芸」を教育の3本の柱とする建学の精神は、当時の日本の社会状況の中では、たいへん新鮮なものでした。現在でも、世界的にユニークな人間形成の教育理念として注目されております。その創設者、河井道先生は熱心なクリスチャンでした。河井先生は「恵みの泉である女子の学びの園」という意味から、恵泉女学園と名付けたのです。「誰も泉を作ることとは出来ない。それは創造主からの賜物である。わたしの学校もその通りである。いのちの源から湧き上がる恵みの賜物とさせたい」と語っておら

れます。

本学には、礼拝やオルガンコンサートなどを行うチャペルがあります。ここで毎朝行われるチャペルアワーは、いわばキャンパスライフのハートともいえる時間です。教職員や学生たちのメッセージに触れ、ともに賛美歌を歌います。初めてキリスト教に接する方もたくさんおられると思いますが、ぜひこのチャペルアワーに参加してみてください。静かで心休まる、私たちの内側の「いのちの泉」のルーツに至るStoryが展開されるひとときになると思います。きっと、新しい、今までにない体験に出会えることでしょう。

4年間の大学生活で、「キリスト教」を学ぶことによって愛と奉仕の精神を、「国際」を学ぶことによって平和と協力の精神を、「園芸」を学ぶことによっていのちと自然を慈しむ精神を養いましょう。素晴らしい出会いや出来事を通し、それぞれのStoryを紡いでいく皆さん方のために、私たち教職員一同は、全力を尽くします。



恵泉女学園大学・学長

木村利人

<<< News



情報教育の充実

高等学校で「情報」を履修した学生が2006年度から入学しています。アンケート結果によると、昨年度入学生の88%、今年度入学生の96%が高等学校で「情報」を学んでいます。これは全体的なレベルアップと同時に、履修内容の差による多様な学生の登場をもたらしています。本学の今年度の情報教育の課題は、学生の実態や社会のニーズと大学の教育目的を合致させるよう大学の情報教育を再検討することです。

もう一つの課題は、上位学年のスキルアップ、ブラッシュアップです。1年次必修科目「情報科学基礎I・II」以外全く情報関連科目を取らない学生もいます。大学全体として課題作成や発表を課す授業が多いので、文書作成など一部のスキルは身につけていますが、それだけでは不十分です。

そこで、数年前から学生対象のパソコン講習会を開催し、論文作成や課題発表、社会に出てからも役立つスキルの習得を図っています。更に昨年度は、企業が求めるパソコン資格のトップに挙げられている「Microsoft Office Specialist」のExcelとWordを実施し

ました。対策講座と合わせてそれぞれ20名余の学生がチャレンジし、講師も驚く高得点で9割以上の合格率という嬉しい結果がでました。

今年度も、使い慣れた学内パソコン、格安の受講料、試験料もアカデミックプライスという恵まれた環境を利用し、多くの学生がチャレンジすることを願っています。

本学ではネットワーク環境やパソコンなどの設備面において、既に女子大学の中で上位を占める情報化を実現しています。更に、学生が大学で学ぶために必要なもの、社会に出るときに必要なものを確実に修得すると同時に、情報化社会に適切に対応していくための情報リテラシーをしっかりと学べるように、情報教育の充実を進めていきます。
(メディアセンター)

教員紹介

この春から恵泉女学園大学の教員となりました。

教員名	主な担当科目
特任教授 古賀林 幸	英文講読 翻訳論
講師 李 泳 采	人権論 平和研究入門
特任講師 Mark Firth	英語 コミュニケーション実践

今年度の客員教員です。

教員名	主な担当科目
客員教授 姜 信子	文芸創作
客員教授 田中公明	社会福祉入門

下記の教員に名誉教授の称号が授与されます。授与式は2007年5月26日に行われます。

教員名	専門分野
教授 藤野早苗	アメリカ文学
教授 箱田直紀	園芸学
教授 鎌田絃子	英米の演劇
教授 森田 進	文学・日本語表現
教授 内海愛子	日本・アジア関係論

大学院人事(2007.4.1付)

人文学研究科長 澤井啓一	人間社会学研究科長 大橋正明
--------------	----------------

<<< News

カウンセリングルームより

恵泉女学園のキャンパスは八重の桜が咲き始め若葉もとてもきれいです。新学期が始まって、少し緊張しながら頑張ろうとしている人が多いのではないのでしょうか。ちゃんと朝起きようとか、予習復習をしようとか、サークルやバイトをしようとか・・・頑張るすぎていても気がつかないかもしれません。ちょっと疲れが連休の後に出てくることも多いものです。「起きられない」「寝られない」、「いらいらする、なんとなく涙が出てくる」という様に体に出たり「毎日の生活に目標がないし何をしたらいいか気持ち乗らない」「友達の目が気になる」

「気の合った友達がいらない」「進路の変更を考えている」などなどいろんな悩みもでてくるかと思います。悩みや症状を持つという事は、今までの自分のあり方や対処の仕方ではうまく行かないぞという心の中からのメッセージに気づくということ、そしてもう一度自分を振り返りよりよい方向へと変化していく第一歩だと思います。カウンセラーが問題を解決してくれるわけではなく、あなたが主体です。大学という比較的自由で守られた空間の中で、あなたのペースであせらないで歩んで行き自分らしさを見つけていかれるお手伝いができればと思っています。

授業のあるときは毎日開室しています。直接いらっしゃるかお電話して予約してください。待っています。(カウンセラー 石本伸子)



大学院での研究にあたって

人文学研究科 文化共生専攻
国木恵子

大学ではドイツの受難劇を通し、異宗教間の対話について研究をしていました。キリスト教とユダヤ教の間の根の深い問題に触れ、幾度となく頭を悩ませたことがありました。

自分たちの伝統を守る姿勢を貫きつつ、過去の事実や時代の変化を受け止めることの難しさを目の当たりにする一方、文化間の交流のまっただ中にいる人々は、決してそれを恐れてはいない、ということにハッとさせられました。

現在私は日本文化に目を移し、伝統的な芸能が時代とともにどのように変化し、人々の交流に影響を与えてきたかを学んでいます。この学びを、自分自身が他の文化圏の人々に関わるときのスタンスのヒントとして活かすことができれば、と思っています。

今の私があること

人間社会学研究科 平和学専攻
玉木杏奈

4月、晴れて私は恵泉女学園大学院生となった。4年前の大学入学当時、私は国際協力の世界など全く興味なかった。この世界に

夢中になり、院へ進学することなど想像すらしていなかったが、今の私がこうしてあることには深い意味がある。というのも、過去に経験したこと、学んだこと、出会ってきた人々のすべてが目に見えぬ「縁」という形で、私自身に結びついているからだ。

人生に無駄なことは何一つない。挫折や苦しみを経験したとしても、それらはすべて血肉となり、さらに私自身を成長させる。すべてのことには意味がある。様々な縁によって今の自分があることに感謝しながら、夢を目指してこれからの院生活を有意義にかつ充実したものにしていきたい。

短期留学生として

人文学部
金 珉廷

私たちは、新羅大学から来た短期留学生です。日本で勉強できるという期待と、初めての訪れる国で生活する不安を持って飛行機に乗りました。

初めの一週間は、学校のいろいろな所を見学しました。キャンパスがとてもきれいなこと、あちこちにきれいな花が植えられているなど、すみずみまで気が配られている印象を受け

ました。ベルで授業の始まりと終わりを知らせるというのは、私にとっては初めての経験で、珍しく感じました。学校の配慮ですぐに日本人とタイ人の友だちができ、うち解けることができました。

日本の生活に適応するまでには、いろいろ

困ったこともありましたが、そんな時には日本人の友だちが助けてくれました。家に来て食べ物を作ってくれたり、生活に必要な外国人登録証、携帯電話の作り方を手伝ってくれたりしました。先生方やたくさんの友だちに支えられ、充実した日々を送っています。

2007年度 春学期受け入れ留学生

新羅大学（韓国）より： 崔美花 金智恵 金珉廷 文景禧

2007年度 長期受け入れ留学生

新羅大学（韓国）より： 任地仁 姜秀珍

バヤップ大学（タイ）より： ラッカナーポーン・マノーカム

自分で作り上げる4年間

信和会 会長 人間環境学科3年
岩崎友香

大学生活。それは、自分で作り上げていくものだと思います。大学では必修の授業を除き、すべて自分で授業を選ぶことができます。学園祭やスプリングフェスタへの参加も、強制ではなく自由です。同じ4年間でどんなことを学び、何を得るか。毎日の行動や活動でどんな充実した生活を送れるのかは、それ

ぞれの興味や関心により、一人ひとりまったく違うものになるのです。

そんな中、私は学生自治会の信和会の役員となりました。信和会は学校側と学生とのパイプラインとなり、だれもがより良い学生生活を円滑に送れるように活動しております。

信和会は、学園祭などをはじめとするイベントの企画から運営までを行います。大学生としての自覚・常識を期待されているからこそ、すべてを任せてもらえているのです。その信

頼に応える行動をとらねばと思います。最初は慣れない仕事に戸惑うこともありましたが、貴重な経験を得ていると感じます。

1年間の任期でどれだけのことを経験し、どれだけの壁にぶつかるのかわかりません。しかし、その壁一つひとつが積み重なっていき、貴重な経験値となることは間違いありません。そして、役員ではない学生にも授業以外で、より多くのことを学べる場を設けるのが私たちの大事な仕事だと思っています。

地域社会との連携

家庭菜園

公開講座「家庭菜園」は昨年度4月より年間18回、午前は野菜についての講義、午後はキャンパスから車で10分ほどの所にあるコミュニティーガーデン野津田に移動しての農作業です。各自20㎡の区画の中で、額に汗して幅広い年齢の方々が助け合いながら野菜づくりに励んでおられます。春夏作はジャガイモから始まりトマト、キュウリなど、秋はハクサイ、ダイコンからミズナ、ホウレンソウ、タマネギと年間にわたり約40種類の野菜を栽培しています。

10月下旬には共同畑で採れたサトイモ、サツマイモなどを使い大鍋で芋煮鍋をつくり、収穫感謝祭を行い、さらに餅つきと一人一品の持ち寄りで、昔なつかしい田舎料理など盛りだくさんの手料理がテーブルに並びました。実行委員さんの準備も大変でしたが、この日だけはお腹が満たされいつもより話がはずんだ一日でした。

受講者の中には、「定年後はじめて野菜作りに挑戦し、サラリーマンとして一生懸命働いてきた自分が、畑で汗を流して夢中になっているのが不思議に思えた」という方もいらっしゃいました。それぞれの想いが詰まった公開講座「家庭菜園」は、世代を越えた交流の場となっているようです。（研究所事務室）



地域連携教育プログラム

1992年春、教員免許を手にした一期生が卒業しました。その後、卒業生の多くは国内外の小中高等学校、大学、福祉施設や企業など、人々の成長や生活を支援する場で現在も活躍しており、最近ではその教え子たちが教員免許を取得して巣立つという、いわゆる「恵泉教職二世」も増えています。このことは、教職課程の卒業生がそれぞれの場で、聖書の教えである隣人愛の精神に基づいた良き働きをしていることの証であり、近年の教員採用試験合格者の増加もそのような生き方に導かれていることの表れと言えます。

このような教育の成果は、大学内での教職員の指導のみならず、介護等体験先である東京光の家、都立多摩養護学校、恵泉中学高等学校の先生方の年間に渡るご指導、そして参観実習や教育ボランティアの機会を提供くださる稲城市教育委員会のご支援の賜物でもあります。昨年度行った稲城市教育委員会との教育連携プログラムの主なものは、①稲城市立中学校6校での一日参観実習②稲城市立小学校4校での一年間に渡る授業観察③稲城市教員対象夏期研修会などです。今年度は、小中学校の英語活

動支援のために学生ALTとして受け入れていただく計画が進んでおり、そのために、学生主体の英語教育研究サークルもこの4月に発足しました。学生達は、知識や技能を分かち合い、高め合う良き教育環境をキャンパスから地域へと広げつつあります。

このような学生や卒業生の記録を『恵泉の教職課程06』と題した小冊子にまとめましたので、ご希望の方は教職課程委員会委員編集責任者篠崎美生子准教授(mioko@keisen.ac.jp)宛てご請求ください。（教職課程委員長 教授 岩佐玲子）

パイプオルガン奉献5周年

早いもので、2002年3月にチャペルにパイプオルガンが完成してから5年の月日が流れました。日々の礼拝、クリスマス礼拝などの特別礼拝での演奏はもちろんのこと、年間各3回行われるチャペルコンサートとランチタイムオルガンコンサート、様々な行事やコンサート、オープンキャンパスでの演奏など非常に多くの機会にオルガンが奏でられ、その暖かな音色に心とまされています。また学生のためのオルガンレッスン、そして2005年度からは公開講座「チャペルで弾くパイプオルガン」がスタートし、学外の皆様へのレッスンも行われ、様々な人々がこのオルガンに出会い、奏でる喜びを味わっています。

パイプオルガンが完成した際、このオルガンの製作者であるライル兄弟オルガン製作所のビルダーより、「私たちの子どもをあなたがたに託すので、大切に育てて欲しい」と言われました。それまで日本でオルガンを学んできた私でしたが、「オルガンが育つ」という様子を実感する経験がほとんど無かったため、不安と期待をかかえてのスタートでした。しかしこの不安はつかの間、オルガンを奏でれば奏でるほど、その音は豊かに変化し、賛美の歌を暖かく包み込み、支える音に成長していくのです。また、オルガンに全てを委ねようという気持ちでオルガンに向うと、オルガン自らが歌い出し、「このオルガンは生きている!」と感じさせ、感動させられることがしばしば起こります。

チャペルコンサートはこの3月で14回を数え、近隣の皆様をはじめとして、遠方からも「このオルガンを聴きたいので」と、毎回いらしてくださる方も与えられています。コンサートが終ると皆さんが喜びにあふれた笑顔でチャペルをあとにされ、このオルガンが多くの人々に愛され、見守られて成長していることの恵みを感じています。これからもさらに多くの人々がこのオルガンに出会い、心に潤いが与えられ、そして共にその成長を見守っていただけるよう祈願しています。



（キリスト教音楽主任 関本恵美子）

行事報告

オープンキャンパスのご案内

本学のオープンキャンパスはとてもバラエティに富んでおり、来場者は年々増加しています。高校生のニーズに合わせて様々なプログラムを準備しております。また、毎日がオープンキャンパス、土曜日もオープンキャンパスと位置づけ、随時高校生の訪問を受け付けています。お知り合いの受験生にご案内いただければ幸いです。

スプリングフェスタ (5/26 土)

プログラムを自由に選択できるアラカルト方式 (7/28 土・8/25 土)

決められたプログラムを順次体験していただくメニュー方式 (8/5 日・9/9 日)

推薦入試&ゼミ体験スペシャル (10/8 月祝)

多摩フェスティバル (11/10 土・11/11 日)

一般入試対策スペシャル (12/2 日)

(入試広報課)

2007年度 海外プログラム

プログラム名	期間	開催地	特記事項
新羅大学一行受け入れ	6月下旬		
英国研修	8/26～9/17 (約3週間)	イギリス/コッツウォルズ	
釜山語学・文化研修	7/30～8/24 (日程調整中)	韓国 (新羅大学)	引率者最後の3、4日
韓国語学研修	2月 (約3週間)	韓国 (梨花女子大)	
シドニー語学研修	2月～3月 (約4週間)	オーストラリア/シドニー	

2007年度 フィールドスタディ

プログラム名 (担当教員名)	期間	開催地
バングラデシュ (大橋)	夏休みの初め (7月末)	バングラデシュ (ダッカ他)
インドネシア (谷本)	8月下旬～9月上旬	インドネシア (トラジャ他)
アメリカ合衆国 (漆畑)	8月末～9月初め	アメリカ合衆国 (ニューヨーク)
ドイツ・オランダ (川島・関本): ヨーロッパの宗教と音楽	8月29日～9月7日	ドイツ・オランダ (ベルリン・アムステルダム他)
沖縄八重山 (松村): 島人にとっての環境と開発、戦争と平和	12月	日本 (石垣島他)
フランス (荒又): パリのトボグラフィ	2月上旬	フランス (パリ)
タイ (斉藤): 都市と農村をつなぐ地域循環型社会を考える	12月下旬もしくは2月上旬	タイ (バンコク)

多くの地域から留学生

今年度本学に在籍している外国人留学生は次のとおりです。

- 中国 ●韓国 ●台湾 ●香港 ●タイ ●ベトナム ●ミャンマー
- ペルー ●フィリピン ●ブラジル

就職活動を始めるにあたって

「就職」とは、それぞれが自分自身の判断で、自分らしい居場所を見つけることです。しかし、その「自分らしい居場所」を探すための就職活動は、多くのみなさんにとってあまりラクな作業とはいえません。

就職活動は、「あなたが持っていると思っている力」「大事にしている価値観」と実社会での客観的な評価とのすり合わせを行う作業でもあります。途中で、くやしいことや納得のいかないこと、自尊心が傷つけられることも何回かあるでしょう。でも、より自分らしい居場所を見つけるために、そして一人前の人間として社会に出ていくために、通らなければいけない道なのです。

経済的に自立すること、社会に貢献し、責任を負うこと、社会的な訓練を受けることは、非常に重要です。この時期に就職活動のような訓練に誠実に立ち向かった人は、必ず大きく成長します。さらに、企業社会の価値観・マナー等を知ること、長い目で見て役に立つことです。これからのあなたの行動・作業は、あなた自身に戻ってくるものです。

就職進路室では、悩んだり迷ったりしながら卒業までの時期を過ごすみなさんの伴走者として、できるだけサポートをしていきたいと思えます。いつでも気軽に立ち寄ってください。

(就職進路室)

2007年度 就職進路室のテーマ <基礎学力アップ> <コミュニケーション能力アップ> <責任感・信頼感>

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	プレゼミナー (3年)			内定未済者 集中指導			企業 懇親会	内定未済者 集中指導			内定未済者 集中指導
		1・2年 ガイダンス1	1・2年 ガイダンス2			定期ガイダンス (就職進路室)				定期ガイダンス (就職進路室)	
	インターンシップ入門講座・正課		インターンシップ 参加・正課			学内企業セミナー I				学内企業セミナー II	
	筆記対策講座				夏期筆記 対策講座	筆記対策講座		冬期筆記 対策講座		春期筆記 対策講座	
模擬面接 (月～金の午前)						個人面接					
	TOEIC IP		TOEIC IP						TOEIC IP		

恵泉トピックス

第22回タイ国際ワークキャンプを終えて —歴史の重みを感じながら—

2007年3月16日、卒業生を送り出し、ホッと一息ついていたときのこと。タイと日本の架け橋となり、タイワークを創設くださった最愛なる望月賢一郎先生の訃報を受けたのでした。突然の出来事に動揺を隠せぬまま、団長の山崎先生、大学院での学びを修了されたウマーボン先生を通訳者に、学生20名とともに18日にタイへ出発しました。パヤップ大学に到着し、参加者とともに先生のお働きに感謝しつつ、副学長のエスター先生、山崎先生の祈りに心を合わせました。

今回のキャンプテーマは“Let's grow-like Jesus”でした。朝夕の礼拝では、テーマに沿って担当の学生、教職員がすばらしいメッセージを語ってくださいました。本当の意味で成長することの豊かさ、深さを知り、22年前に望月先生によって蒔かれたタイワークがこんなに成長できたのも、多くの方の支えと祈り、そして神の導きがあったからこそだと感じています。これまでの恵泉からのタイワーク参加者はのべ803名。ともに働き、寝食をともにした仲間の一人一人の心の中に蒔かれた種は、今なお様々な形で成長し続けています。私もこの貴重な出会いの架け橋となれるよう励んでいきたいと思います。学生たちのこれからの出会い、これからの行動によって成長していく多くの種をこれからも見守っていきたいものです。

(キリスト教教育主任 宇野 緑)

特色GP「専門性をもった教養教育としての体験学習」

本学では「フィールドスタディ」と「コミュニティサービスラーニング」という人間社会学部の専門科目を核にした取組「専門性をもった教養教育としての体験学習」により、2006年度「特色ある大学教育支援プログラム」に採択されました。この採択による特別補助金を利用して、取組を充実発展させるために昨年度は以下の事業を実施しました。

第1回体験学習活動報告会（2007年1月18日）

第2回体験学習活動報告会（2007年3月9日）

外部評価（2006年11月～2007年3月）

海外における体験学習の実態基礎調査（2006年11月～2007年3月）

FS参加卒業生アンケート調査（2007年2月～3月）

体験学習ホームページの作成（2006年12月～2007年3月）

2007年度は以下の活動を予定しています。

危機管理事例集の発行

国際シンポジウムの開催（11月）

体験学習ホームページの充実 <http://www.keisen.ac.jp/univ/gp/index.htm>

（教育研究支援センター）



初夏の花 ムスカリ

* Grape hyacinth

ムスカリは3～4月に咲いて、新入生を迎えるかのように早春の花壇を彩る。球根を植えると、毎年咲くので、多摩キャンパスにもあちこちに植えている。（園芸準備室）

■ 編集後記

恵泉女学園大学の入学式は、桜を始めとしたキャンパス内の花々と緑の中で行われます。まさに最初の一步を踏み出すに相応しい季節です。これから学内は初夏の自然へと変化していきます。何を発見できるでしょうか。



恵泉女学園大学

〒206-8586 東京都多摩市南野2-10-1

TEL: 042-376-8211 FAX: 042-376-8218

ホームページ <http://www.keisen.jp/univ/>

mobile <http://m.keisen.jp>